

第十堰の現状と調査の目的

第十堰の現状・洪水時の現象

堰の老朽化

堰上流の
せき上げ

堰下流の局所深掘れ

堰を迂回する流れ

堰の形状・変状
確認

・堰の外観変状や内部の状況を簡易測定等により定性的また定量的に把握(経年変化の把握)

堰周辺の水位状況
確認

・せき上げによる各洪水の水位状況を計測し、斜め堰による上下流、左右岸に与える複雑な流れを把握

堰下流の河床変化
確認

・堰下流の局所的な深掘れや面的な河床の状況を計測し、経年的な河床変化量を把握

迂回流の発生状況
の確認

・洪水時において堰を迂回する流れの流向・流速を計測し、堤防に与える影響の有無を把握

既往の空洞箇所においては大きな変化は無いが、これ以外の箇所において新たな空洞を確認した。

洪水時における水位の状況を確認した。

昭和51年洪水による異常深掘れ箇所対策工の実施により近年では安定傾向にある。その他の箇所では砂州の拡大が確認されている。

洪水時において堰左岸における迂回流を確認した。(平成27年度はデータ未計測)

第十堰の影響により近年の洪水においては、せき上げ等の水理現象の解明のため、引き続きデータ取得・蓄積に努める。堰の老朽化については、劣化状態の把握に努めるとともに、適切な維持管理を実施する。また、堰下流右岸の局所深掘れについては、近年では大きな変動は無いものの、河床状況の変化が見受けられるため、引き続き注視する必要がある。

第十堰周辺における調査

調査結果